

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年1月11日

【四半期会計期間】 第2期第3四半期(自平成24年9月1日至平成24年11月30日)

【会社名】 株式会社 T S Iホールディングス

【英訳名】 TSI HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 三宅正彦

【本店の所在の場所】 東京都千代田区麹町五丁目7番地1

【電話番号】 (03)5213-5512

【事務連絡者氏名】 管理本部副本部長 大石正昭

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区麹町五丁目7番地1

【電話番号】 (03)5213-5512

【事務連絡者氏名】 管理本部副本部長 大石正昭

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第1期 第3四半期 連結累計期間	第2期 第3四半期 連結累計期間	第1期
会計期間		自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日	自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日	自 平成23年3月1日 至 平成24年2月29日
売上高	(百万円)	98,057	137,208	147,799
経常利益又は経常損失()	(百万円)	4,482	1,226	12,254
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失()	(百万円)	4,570	134	27,158
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	10,665	274	23,987
純資産額	(百万円)	132,524	116,965	119,255
総資産額	(百万円)	212,312	187,740	190,804
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期(当期)純損失 ()	(円)	43.85	1.16	254.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	60.9	60.6	60.7

回次		第1期 第3四半期 連結会計期間	第2期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年9月1日 至 平成23年11月30日	自 平成24年9月1日 至 平成24年11月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	0.75	22.10

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 第1期第3四半期連結累計期間及び第1期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。また、第2期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 第1期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
- 当社は、平成23年6月1日に、(株)東京スタイルと(株)サンエー・インターナショナルの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されました。当社設立に際し、(株)東京スタイルを取得企業として企業結合会計を適用しているため、前第3四半期連結累計期間(平成23年3月1日から平成23年11月30日まで)の連結経営成績は、取得企業である(株)東京スタイルの前第3四半期連結累計期間(平成23年3月1日から平成23年11月30日まで)の連結経営成績を基礎に、(株)サンエー・インターナショナルの平成23年6月1日から平成23年11月30日までの連結経営成績を連結したものであります。また、前連結会計年度(平成23年3月1日から平成24年2月29日まで)の連結経営成績は、取得企業である(株)東京スタイルの前連結会計年度(平成23年3月1日から平成24年2月29日まで)の連結経営成績を基礎に、(株)サンエー・インターナショナルの平成23年6月1日から平成24年2月29日までの連結経営成績を連結したものであります。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、セグメントごとの主要な関係会社の異動については、以下のとおりであります。

（サンエー・インターナショナルグループ）

第1四半期連結会計期間において、(株)サンエー・インターナショナルは、連結子会社である(株)ラストコーンを吸収合併しております。また、同じく連結子会社である台湾三詠国際股? 有限公司は、清算を結了しております。

当第3四半期連結会計期間において、(株)サンエー・インターナショナルは、保有する(株)ケイト・スペードジャパン株式のすべてを譲渡したことにより、同社は関係会社に該当しなくなりました。また、当社グループの生産、物流機能を統合するため、(株)サンエー・インターナショナルの連結子会社である(株)サンエー・プロダクション・ネットワークは、現物分配により当社の直接所有による連結子会社となるとともに、商号を(株)T S I・プロダクション・ネットワークに変更しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間末において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当社は、平成23年6月1日に、㈱東京スタイルと㈱サンエー・インターナショナルの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されました。当社設立に際し、㈱東京スタイルを取得企業として企業結合会計を適用しているため、前第3四半期連結累計期間（平成23年3月1日から平成23年11月30日まで）の連結経営成績は、取得企業である㈱東京スタイルの前第3四半期連結累計期間（平成23年3月1日から平成23年11月30日まで）の連結経営成績を基礎に、㈱サンエー・インターナショナルの平成23年6月1日から平成23年11月30日までの連結経営成績を連結したものです。

このため、当第3四半期連結累計期間と前第3四半期連結累計期間との単純な比較ができませんので、前年同四半期との対比は行っておりません。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日まで）における我が国経済は、当初においては東日本大震災の復興関連需要などによる国内需要の回復や設備投資に持ち直しの動きが見られたものの、欧州債務危機や中国経済の成長鈍化等による世界景気の減速及び円高に伴う輸出の減少などにより弱含みの状況で推移しました。

アパレル業界においては、個人消費の長期低迷が続くなか、一部に明るい兆しも見られたものの、ライフスタイルの変容に伴う消費者意識と購買行動の変化などもあり、依然として不安定な状況が続きました。

こうしたなかで当社グループは、平成24年4月にグループ全体の中期経営計画を策定し、事業拠点の整理統合や不採算店舗の撤退、遊休資産の売却などを実施しました。また、その一方で傘下の東京スタイルグループ及びサンエー・インターナショナルグループの管理機能、店舗開発機能及び生産機能の統合を実施するなど、持株会社の機能強化と経営統合によるシナジー効果の創出を図るとともに、営業活動においても前期に引き続いてグループ各社間の積極的な連携を推進しました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,372億8百万円となりました。損益面では新規出店及びコスト構造改革に伴う投資を先行させたため、営業損失は20百万円となり、また、経常利益は12億26百万円となりました。

また、㈱ケイト・スペード ジャパン株式を売却したことによる関係会社株式売却益27億50百万円及び固定資産売却益、投資有価証券売却益などにより38億27百万円の特別利益を計上する一方、投資有価証券評価損などによる33億39百万円の特別損失及び法人税等として11億70百万円を計上したこと等により、当社グループの四半期純利益は1億34百万円となりました。

セグメント別の売上の概況は次の通りです。

（東京スタイルグループ）

(株)東京スタイルは事業構造の抜本的な改革を進めるとともに、採算管理手法の見直しにより、低収益・不採算の店舗・売場約300箇所の閉鎖、並びに、不採算4ブランドの廃止を実施しました。下半期についても引続き非効率なブランドや売場をスクラップし販売効率をさらに向上させることで収益体質の改善を図っております。また、コスト構造改革の一層の推進の必要性から人員の効率化を迅速に進めるべく「早期退職支援制度」を導入しました。

(株)ナノ・ユニバースをはじめとするグループ各社との連携を強化し、積極的に出店したことで順調に売上を拡大するとともに、Web販売などの事業基盤の拡充に向けて様々な施策に取り組んできました。その結果、東京スタイルグループの売上高は599億円68百万円となりました。

(サンエー・インターナショナルグループ)

消費者のライフスタイルの変化を踏まえ、東京ソラマチ、渋谷ヒカリエ、ダイバーシティ東京プラザ及び三井アウトレットパーク木更津といった集客力のある新規商業施設に積極的に出店するとともに、アウトレット事業を展開していた子会社を(株)サンエー・インターナショナルが吸収合併することでアウトレット事業の再編と強化を図りました。また、サンエー・インターナショナルグループの基幹ブランドである「ナチュラルビューティーベーシック」において、前連結会計年度に引き続いてテレビCMによる積極的な広告宣伝活動を展開いたしました。その一方、(株)サンエー・インターナショナルの子会社であった(株)ケイト・スペード ジャパンの全株式を売却することにより同社はサンエー・インターナショナルグループから外れることとなりました。その結果、サンエー・インターナショナルグループの売上高は771億96百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

総資産は、受取手形及び売掛金が38億79百万円増加、有価証券が7億88百万円増加、たな卸資産が65億77百万円増加するなどしたものの、現金及び預金が56億1百万円減少したこと、投資有価証券が83億63百万円減少したことなどにより、前期末比1.6%減少し、1,877億40百万円となりました。

(負債)

負債は、支払手形及び買掛金が31億53百万円増加、賞与引当金が5億40百万円増加、繰延税金負債の増加等により固定負債「その他」が4億76百万円増加するなどしたものの、短期借入金25億34百万円減少、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が27億24百万円減少したことなどにより、前期末比1.1%減少し、707億74百万円となりました。

(純資産)

純資産は、利益剰余金が18億92百万円減少したこと、その他有価証券評価差額金が2億37百万円減少したことなどにより、前期末比1.9%減少し、1,169億65百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年11月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年1月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	115,783,293	115,783,293	東京証券取引所 (市場第1部)	単元株式数は100株です。
計	115,783,293	115,783,293		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年11月30日		115,783,293		15,000		3,750

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 115,564,100	1,155,641	
単元未満株式	普通株式 215,893		
発行済株式総数	115,783,293		
総株主の議決権		1,155,641	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年8月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成24年11月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社TSIホールディングス	東京都千代田区麹町 五丁目7番地1	3,300		3,300	0.00
計		3,300		3,300	0.00

2 【役員の状態】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりです。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (経営企画本部副本部長 兼 広報室長)	取締役 (経営企画本部副本部長)	高野 茂	平成24年7月1日
取締役 (経営企画本部長 兼 経営管理部長)	取締役 (経営企画本部長)	三宅 孝彦	平成24年9月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

(2) 当社は、平成23年6月1日に、(株)東京スタイルと(株)サンエー・インターナショナルの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されました。当社設立に際し、(株)東京スタイルを取得企業として企業結合会計を適用しているため、前第3四半期連結累計期間(平成23年3月1日から平成23年11月30日まで)の連結経営成績は、取得企業である(株)東京スタイルの前第3四半期連結累計期間(平成23年3月1日から平成23年11月30日まで)の連結経営成績を基礎に、(株)サンエー・インターナショナルの平成23年6月1日から平成23年11月30日までの連結経営成績を連結したものであります。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年9月1日から平成24年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年3月1日から平成24年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,101	26,500
受取手形及び売掛金	14,207	18,086
有価証券	1,999	2,787
商品及び製品	19,991	26,925
仕掛品	929	447
原材料及び貯蔵品	262	388
その他	5,344	6,090
貸倒引当金	672	505
流動資産合計	74,164	80,721
固定資産		
有形固定資産	21,165	21,208
無形固定資産		
のれん	4,712	3,898
その他	3,306	3,292
無形固定資産合計	8,018	7,191
投資その他の資産		
投資有価証券	65,518	57,155
その他	22,324	22,013
貸倒引当金	387	549
投資その他の資産合計	87,454	78,619
固定資産合計	116,639	107,018
資産合計	190,804	187,740
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,889	25,042
短期借入金	18,976	16,441
1年内返済予定の長期借入金	4,320	3,059
未払法人税等	1,656	1,755
賞与引当金	1,470	2,010
ポイント引当金	394	382
株主優待引当金	22	13
返品調整引当金	607	731
資産除去債務	69	83
その他	10,907	10,984
流動負債合計	60,313	60,503
固定負債		
社債	74	43
長期借入金	2,485	1,021
退職給付引当金	1,618	1,532
役員退職慰労引当金	896	904
資産除去債務	2,262	2,394
その他	3,897	4,374
固定負債合計	11,235	10,270
負債合計	71,548	70,774

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,000	15,000
資本剰余金	70,956	70,956
利益剰余金	28,779	26,887
自己株式	1	1
株主資本合計	114,734	112,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,361	1,124
繰延ヘッジ損益	5	3
為替換算調整勘定	200	232
その他の包括利益累計額合計	1,166	894
新株予約権	291	334
少数株主持分	3,063	2,894
純資産合計	119,255	116,965
負債純資産合計	190,804	187,740

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
売上高	98,057	137,208
売上原価	49,126	65,946
売上総利益	48,931	71,261
販売費及び一般管理費	52,211	71,282
営業損失()	3,280	20
営業外収益		
受取利息	447	417
受取配当金	347	392
為替差益	-	82
投資有価証券評価益	-	420
デリバティブ評価益	-	58
その他	322	462
営業外収益合計	1,116	1,834
営業外費用		
支払利息	90	184
店舗等除却損	212	80
為替差損	100	-
有価証券評価損	386	-
投資有価証券評価損	600	-
デリバティブ評価損	506	-
貸倒引当金繰入額	101	161
その他	319	159
営業外費用合計	2,318	586
経常利益又は経常損失()	4,482	1,226
特別利益		
固定資産売却益	22	454
投資有価証券売却益	0	496
関係会社株式売却益	-	2,750
負ののれん発生益	4,039	-
新株予約権戻入益	272	-
その他	84	125
特別利益合計	4,420	3,827
特別損失		
固定資産除却損	80	143
減損損失	709	71
投資有価証券売却損	549	180
投資有価証券評価損	284	1,352
関係会社株式評価損	-	619
関係会社整理損	10	152
早期退職関連費用	-	525
解約補償金	-	128
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	315	-
災害による損失	71	-
段階取得に係る差損	40	-
その他	335	166
特別損失合計	2,397	3,339
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	2,459	1,714

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
法人税、住民税及び事業税	1,553	2,406
法人税等調整額	242	1,235
法人税等合計	1,796	1,170
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	4,255	543
少数株主利益	314	409
四半期純利益又は四半期純損失()	4,570	134

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	4,255	543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,198	236
繰延ヘッジ損益	6	1
為替換算調整勘定	176	31
持分法適用会社に対する持分相当額	28	0
その他の包括利益合計	6,410	269
四半期包括利益	10,665	274
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,974	137
少数株主に係る四半期包括利益	308	411

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
(連結の範囲の重要な変更) ㈱サンエー・インターナショナルは、第1四半期連結会計期間において、連結子会社である㈱ラストコールを吸収合併したため、同社を連結の範囲から除外しております。また、㈱サンエー・インターナショナルは台湾三詠国際股? 有限公司の清算終了により、同社を連結の範囲から除外しております。 ㈱サンエー・インターナショナルは、当第3四半期連結会計期間において、保有する㈱ケイト・スベード ジャパン株式のすべてを譲渡したことにより、同社を連結の範囲から除外しております。また、㈱サンエー・インターナショナルの連結子会社である㈱サンエー・プロダクション・ネットワークは、当社の直接所有による連結子会社となるとともに、商号を㈱T S I ・プロダクション・ネットワークに変更しております。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく当第3四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
当座貸越極度額	12,195百万円	17,958百万円
借入実行残高	9,155	15,611
差引額	3,040	2,347

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
減価償却費	2,556百万円	3,567百万円
のれんの償却額	1,591百万円	814百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)

1. 配当金支払額

当社は、平成23年6月1日に株式移転により設立された共同持株会社であるため、配当金の支払額は完全子会社である(株)東京スタイルの定時株主総会において決議された金額であります。

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月26日 定時株主総会	普通株式	1,541	17.50	平成23年2月28日	平成23年5月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成23年6月1日に(株)東京スタイルと(株)サンエー・インターナショナルの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されました。

また、当第3四半期連結累計期間に、完全子会社である(株)東京スタイルは当社株式(株式移転直前に保有していた(株)サンエー・インターナショナル株式)990,000株を売却いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金は15,000百万円、資本剰余金は70,956百万円、利益剰余金は51,367百万円、自己株式は1百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月25日 取締役会	普通株式	2,026	17.50	平成24年2月29日	平成24年5月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	東京スタイル グループ	サンエー・イ ンターナシ ョナルグル ープ	計		
売上高					
外部顧客への売上高	47,384	50,670	98,054	3	98,057
セグメント間の 内部売上高又は振替高	110	7	118	118	
計	47,494	50,677	98,172	115	98,057
セグメント損失()	4,078	782	3,296	16	3,280

(注)1 「調整額」の区分は、主に事業セグメントに帰属しない当社(純粹持株会社)であります。

2 セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

3 サンエー・インターナショナルグループは、平成23年6月1日から平成23年11月30日までを連結したものと
なります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「サンエー・インターナショナルグループ」セグメントにおいて、退店の意思決定をした店舗及び
営業損益が継続してマイナスである店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を
店舗等除却損に含めて営業外費用に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において151百万円であります。

また、「サンエー・インターナショナルグループ」セグメントにおいて、営業損益が継続してマイナ
スであり、翌連結会計年度においてもマイナスが見込まれる連結子会社等について帳簿価額を回収可
能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において709百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「東京スタイルグループ」セグメントにおいて、(株)フィットの株式を第1四半期連結会計期間に取
得し、同社を連結子会社としました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において1,163百万円でありま
す。

また、「東京スタイルグループ」セグメントにおいて、(株)エレファント及び(株)ローズパッドの株式を
第2四半期連結会計期間に取得し、当該2社を連結子会社としました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において7,938百万円でありま
す。

さらに、「東京スタイルグループ」セグメントにおいて、(株)アルページの株式を当第3四半期連結
会計期間に取得し、連結子会社としました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において4,726百万円でありま
す。

(重要な負ののれん発生益)

当社は、平成23年6月1日に、(株)東京スタイルと(株)サンエー・インターナショナルの共同株式移転の方法による共同持株会社として設立されましたが、(株)東京スタイルを取得企業として企業結合会計を適用しているため、(株)サンエー・インターナショナルを完全子会社とする過程において、負ののれん4,039百万円が発生しました。当該負ののれんは、当第3四半期連結累計期間において、負ののれん発生益として特別利益に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	東京スタイル グループ	サンエー・イ ンターナシ ョナルグル ープ	計		
売上高					
外部顧客への売上高	59,912	77,164	137,077	130	137,208
セグメント間の 内部売上高又は振替高	56	31	88	88	
計	59,968	77,196	137,165	42	137,208
セグメント損失()	1,135	1,531	396	417	20

(注)1 「調整額」の区分は、主に事業セグメントに帰属しない当社(純粹持株会社)及び報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2 セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント区分の変更)

当社グループ全体の生産、物流機能を統合するため、当第3四半期連結会計期間において、(株)サンエー・インターナショナルの連結子会社である(株)サンエー・プロダクション・ネットワークは、当社の直接所有による連結子会社となるとともに、商号を(株)T S I・プロダクション・ネットワークに変更しております。

これにより、当該事業に関するセグメント区分を、「サンエー・インターナショナルグループ」セグメントから「調整額」に変更しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「東京スタイルグループ」セグメントにおいて、閉鎖の意思決定をしたブランドに係る店舗等について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において51百万円であります。

また、「サンエー・インターナショナルグループ」セグメントにおいて、退店の意思決定をした店舗及び営業損益が継続してマイナスである店舗について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を店舗等除却損に含めて営業外費用に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において32百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)

連結子会社である(株)サンエー・インターナショナルにおける事業分離

((株)サンエー・インターナショナルが保有する連結子会社である(株)ケイト・スペード ジャパン株式の譲渡)

(1) 事業分離の概要

分離先企業の名称

Kate Spade LLC

分離した事業の内容

「ケイト・スペード ニューヨーク」ブランド事業

事業分離を行った主な理由

(株)サンエー・インターナショナルは、平成8年に米国Kate Spade LLCと独占輸入販売契約を締結し、また、平成21年には同社との合弁により(株)ケイト・スペード ジャパンを設立しケイト・スペード事業を展開してまいりました。

今般、Kate Spade LLCとの合弁契約に基づき、同社より合弁契約の解消と(株)ケイト・スペード ジャパンの株式を買い取る旨の申し出がありましたので、これに応じて(株)サンエー・インターナショナルが保有するすべての株式を譲渡いたしました。

事業分離日(株式譲渡日)

平成24年10月31日

法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金のみとする株式譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

移転損益の金額

関係会社株式売却益 2,750百万円

移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 1,849百万円

固定資産 884百万円

資産合計 2,733百万円

流動負債 688百万円

固定負債 886百万円

負債合計 1,574百万円

会計処理

(株)ケイト・スペード ジャパンの株式の連結上の帳簿価額と受取対価との差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上いたしました。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

「サンエー・インターナショナルグループ」セグメント

(4) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

	累計期間
売上高	4,023百万円
営業利益	271百万円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ()	43円85銭	1円16銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失 () (百万円)	4,570	134
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失 () (百万円)	4,570	134
普通株式の期中平均株式数(千株)	104,212	115,780
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。また、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

連結子会社における自己株式の取得

(株)東京スタイルの連結子会社である(株)日本パノック及び(株)トスカは、平成24年12月12日付で、特定の株主より同社の自己株式をそれぞれ取得いたしました。当該取得により、当社の同社に対する議決権所有割合(間接所有割合)が100%となるとともに、平成25年2月期第4四半期連結会計期間において893百万円の特別利益(負ののれん発生益)を計上いたします。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年1月11日

株式会社TSIホールディングス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊島 忠夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田中 量 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社TSIホールディングスの平成24年3月1日から平成25年2月28日の第3四半期連結会計期間（平成24年9月1日から平成24年11月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年3月1日から平成24年11月30日）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社TSIホールディングス及び連結子会社の平成24年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。